

令和4年度学校運営評価総括表（令和4年4月－令和5年3月）

●評価は、I～Xの各カテゴリーごとの項目を「5.良い 4.やや良い 3.普通 2.やや不十分 1.不十分」で採点し、その平均点として表したものである。

カテゴリー ・項目数	自己評価	学校評価委員会評価
I 学校経営 (5項目)	<p>評価点【 4.8 】*昨年 4.7</p> <p>昨年平均4.7から4.8へ上昇し、全般的に高評価であった。</p> <p>評価項目1の養成所設置目的及び管理運営、運営計画、教育理念等は明示されており、毎年教職員で確認しているため、教職員の認識・理解度は高く、高評価であった。</p> <p>評価項目2の意思決定機関、意思決定システムについては、システムは明確にされているものの、昨年度課題としてあがった職員会議等で決定した事項に変更が生じた場合の情報共有漏れについて、今年度も完全になされない場合があったとの意見があった。</p> <p>情報共有については、朝礼等を活用しているが教職員全員に伝わっていないことがあるため、さらに情報共有を徹底するための改善策を講じる必要がある。</p> <p>評価項目4「運営計画と将来構想があり、年間・短期・中期計画に基づいた実施・評価」については、中期目標を6年で立案し中期計画は単年度運営計画を引き続き運用することとした。将来構想については、富士市立看護専門学校に関して幅広く意見を聴取するために、近隣関係者を招いて『富士市立看護専門学校あり方検討会』を実施し、看護教育の現状と課題や4年制看護専門学校である長野県須坂看護専門学校の視察結果を報告し、意見交換を行った。当校の教育課程形態の方向性について令和6年度中には結論を出す予定である。</p> <p>評価項目5、学校運営評価の外部公表は、外部から第三者を迎えて立ち上げた学校評価委員会にて、学校運営評価をしていく。令和4年度事業も、学校評価委員会にて評価し、ホームページにて外部公表する予定である。委員会での意見を踏まえ継続して改善に取り組んでいきたい。</p>	<p>評価点【 4.8 】</p> <p>・教員の多くが実習で不在になり、情報の変更を共有が完全でなかったとのことだが、対策としては、教員のグループラインの活用や行事の当日朝に必ず変更事項の確認をする等で改善を願いたい。</p> <p>・あり方検討会については、昨年10月に富士・富士宮地区の公立3病院と行政関係者による第1回を開催し、令和5年度3月には第2回を開催予定。総括表にもあるように、令和6年度中には学校としての結論を出す計画でいるとの事、全国・静岡県内の学校の動向や学生・地域・病院のニーズなど情報収集中で、本校の課題事項として取り組んでいることを評価する。今後さらに検討が深められるよう期待したい。</p>
II 教育課程 ・教育活動 (2項目)	<p>評価点【 4.9 】*昨年 4.8</p> <p>新カリキュラム 1年目で、新規科目があったが教員間で協力して、円滑に進めることができた。また次年度の新規科目の準備も始めている。カリキュラムの評価をPDCAサイクルで実施するため、カリキュラムルーブリックを作成し、今年度1年生に自己評価を実施する予定である。その結果を今後の授業内容やカリキュラムの改善に繋げていく。</p> <p>今年度も、新型コロナウイルスの影響で出席停止の学生は、円滑にオンラインで出席することができていた。来校できない講師もオンラインで講義してもらえるように調整した。</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <p>・新カリキュラムの構築時に、カリキュラム評価をする方法としてカリキュラムルーブリックを作成したとのこと、今後の改善に繋げていきたい。</p>

<p>Ⅲ 授業・学科 (5項目)</p>	<p>評価点【 4.8 】*昨年 4.5</p> <p>授業については、ピアルームを使用して、アクティブラーニング・ICTを活用した効果的な授業を実施している。また、「ICTと情報モラル」の講義で、看護師に必要な情報リテラシーを学んでいる。新規科目の臨床判断演習においては、担当教員間で検討し、自主研究グループとして、大学教授のアドバイスを受けながら授業内容の工夫をしていた。学生が課題に取り組み、動画を撮る等してグループ発表を共有する様子が多く見られた。しかし、学生の主体的な学修に繋がっているかは疑問であり、今後も課題である。項目8「前年度の評価結果を参考に、各看護学担当で授業内容を検討している」については、新カリキュラムのシラバス作成の検討は行ったが、評価結果について必ずしもできてはいない。また、項目11「非常勤講師に授業評価を実施し、授業内容に反映させている」については、外部講師の場合、授業評価を渡しても、なかなか反映されにくい状況にある。</p> <p>今年度入学生より、主な教科書は、電子のみとなったが特に支障はない様だった。教科書の準備忘れが無くなり、学修の効率化につながっていると思われる。</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <p>・今後の授業改善のため10時間以上の非常勤講師43科目と専任教員28科目の計71科目について授業評価をCラーニングという学習支援システムを利用しアンケートを行ったことは評価できる。ICTを活用し学習の効率化は図っているが、新カリキュラムなど学習の量は増えており、学生は大変と思われます。クラスの中の学力が均一ではない、全体を上げていかなければならないと思う。</p>
<p>Ⅳ 実習 (4項目)</p>	<p>評価点【 4.9 】*昨年 4.8</p> <p>新カリキュラムの新規実習として、1年次の地域看護実習が行われ、早くから地域看護を意識づけるようにしている。また、基礎看護学実習Ⅱの時期が、感染症流行期を避け12月に変更され、多忙であったが円滑に実施できた。今年度は新型コロナウイルス感染症のため臨地実習に行けない期間は無かったが、一部の病棟が閉鎖されることがあり、学生が他の病棟へ分散移動して、実習することがあったため、教員間で協力を図るようにした。また、老年看護学実習では、断られる施設があり学生配置に苦慮したが、全員臨地で実習することができた。学生が新型コロナウイルスに感染したり、濃厚接触者になったりすることがあり、実習病院の指示に従い欠席したため、春休みに複数の補習実習をする必要がある。さらに、3年生の学生が事故により臨地実習を欠席したため、国家試験後の2年生の領域別実習と共に補習実習を行い、卒業できるように調整した。</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <p>・看護学生ということで、施設の方にご理解頂き、実習をすることができた。施設でクラスターが出してしまった時もあるが、分散して実習を行ったことなど評価できると思う。</p>
<p>Ⅴ 入学 (2項目)</p>	<p>評価点【 4.8 】*昨年 4.9</p> <p>昨年同様、平均4.8と高い評価であった。</p> <p>評価項目17、入学者選抜については、校内入試担当者会にて協議し、入学選考委員会にて合格の判定を審議し、運営委員会にて合格者を決定している。入学試験に関する実施方法や判定方法の明文化はなされており、公平性は確保されているものの、定期的に入学者選抜についての再確認・見直しは実施する。また、社会情勢、地域情勢を踏まえた取り組みとして、一昨年度から現行の指定校推薦制度に加え、公募型推薦制度を導入し、今年度3年目を迎えた。昨年度より応募が減ったものの、公募型推薦制度の定着が図られていると言える。今後も、社会情勢の変化に併せた入試制度の検討を継続していく。</p>	<p>評価点【 4.8 】</p> <p>・留年については、少ない方だと思う。3年間で卒業できるよう努力している。</p> <p>・公募型推薦入試については、令和3年度入学性から各校2名まで推薦することができ、応募者もあることから定着していると思うので、継続してほしい。</p> <p>・学生達からは、SNS インスタグラム等を充実すべきとの意見があり、事務の合間での作業となるが、さらなる拡充を図っていた</p>

	<p>評価項目18、入学希望者の開拓については、オープンキャンパスの開催のほか学校説明会に参加するなどPRに取り組んでいる。しかしながら、昨年度より受験者数が減少している。少子化や大学志向などの原因が考えられるが、学生確保対策担当者会で原因分析をしつつ学生確保策を検討する。当校の強みを押し出し、学生確保に努めたい。</p>	<p>ければと思う。</p>
<p>VI 学生への支援 (4項目)</p>	<p>評価点【 4.7 】*昨年 4.7</p> <p>昨年同様、平均4.7と全体的に高い評価であった。 経済的・精神的側面からの支援は、学生から相談あれば応じており、今後も継続して学生に寄り添った支援をしていく。学生のカウンセリング制度の利用者は減少したが、C-ラーニングを活用する等個別相談体制と併せて継続して提供していく。</p> <p>学生の課外活動は、コロナ禍で活動が制限され、ほぼ活動ができていないため、学生の課外活動支援の評価は低かった。今後も、社会情勢にあわせながら学生の課外活動に関する支援を継続していく。</p> <p>学習困難な学生の支援については、個別に対応するなど、支援体制は整っている。また、新型コロナウイルスの関係で学生や講師が学校にこられないときには、オンラインで授業をすることで、学生の学修の機会を奪わないよう取り組んだ。</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C-ラーニングは、気軽に相談出来る連絡ツールとなっています。 ・C-ラーニングの活用は、学生達に好評とのことであり、評価できる点でもある。
<p>VII 卒業・就職・進学 (5項目)</p>	<p>評価点【 4.8 】*昨年 4.7</p> <p>昨年平均4.7から4.8へ上昇し、全般的に高評価であった。</p> <p>評価項目 23、進路選択への支援については、昨年同様コロナ禍で学生個々への個別指導は難しい面もあったが、在校生への積極的な進路指導や多岐に渡る幅広い進路選択支援等、強化して取り組んでおり、評価は高かった。</p> <p>長年の課題である卒業生卒業後のフォローについては、卒業生から相談があれば対応している。また、昨年度末から、ホームページを活用した同窓会名簿管理を稼働しているが、卒業生に周知はしたものの、データ入力がありすぎない状態である。引き続き、卒業生の状況把握に取り組み、相談された場合には対応するなど、卒業後のフォローを実施する。</p> <p>評価項目25、卒業時の看護実践能力の到達度評価・指導については確認し、カリキュラムに反映しているが、卒業後の評価については、「就職先と学校のどちらの評価になるのか」という問題もあり、実施が困難な状況であり課題である。</p> <p>評価項目26、国家試験の支援体制は、教員が精力的に取り組み、効果的な指導がなされていた。今後も、学校全体できめ細かな支援を継続していく。</p> <p>評価項目27、卒業生への就職支援と中途退職者の就職相談は、卒業生の卒業後の状況把握が不十分であることなどから、積極的な就職相談は実施できていない。その対策として卒業生を招き「ホームカミングデー」を開催した。今年度の参加者は少なかったが、今後も継続して実施する。</p>	<p>評価点【 4.8 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の就業調査については、追うのが大変で、現状あまり出来ていない。ホームページを活用した同窓会名簿管理を作ったが100名ちよつとしか入力がなくあまりできていないが、一昨年から、卒業時にデータを入力していただいております、アンケート等しやすくなると思われ整備できていくと思う。 ・新カリキュラム進捗状況を加味したアンケート調査を行っていただけたらと思う。

<p>VIII 管理・財政・施設整備 (7項目)</p>	<p>評価点【 4.8 】*昨年 4.8</p> <p>昨年度同様、全体評価としては平均4.8と高評価であった。</p> <p>項目28「適正な予算の執行、進行管理」については、職員会議等で予算の執行状況、予算編成状況を伝えるなど、予算状況について積極的に教職員に示していることもあり、高評価であった。</p> <p>項目30「危機管理体制、防犯・交通安全意識の向上」について、地震発生時フローチャートを作成、毎年危機管理マニュアルを見直して作成、教職員に共有を図っている。総合防災訓練は、毎年4月に教職員と学生で実施はしているが、看護専門学校が妊産婦等福祉避難所として指定されたことから、今年度は妊産婦等福祉避難所として段ボールベッドの設置訓練も別途実施した。</p> <p>防犯については、新型コロナウイルス対策で換気のため窓を開けており、防犯と感染対策の両立が難しいところである。新型コロナウイルスの5類への見直しに合わせて、換気も縮小するなど防犯対策の側面を上げていきたい。不審者の監視体制は専門員を設けることができないため、入口や窓を限られたところだけ開けることとし、徐々にコロナ禍以前の状態に戻していきたい。</p> <p>また、交通安全意識を高めるための交通安全教室や、消費者被害を未然に防ぐための消費者啓発講座は、継続して実施していく。</p> <p>評価項目34「学生及び教職員の福利厚生施設整備」については、図書室前にテーブルと椅子を設置し、教員と学生との交流・相談スペースとして活用している。</p>	<p>評価点【 4.9 】</p> <p>・防災マニュアル・BCP 計画については、地震発生時、看護専門学校が妊産婦等福祉避難所として指定されたことから、福祉避難所の業務にあたる福祉避難所班と学校再開班に教職員は役割を分け配置されることになったのは、理解した。災害に備え万全の準備をしてほしい。</p> <p>・防犯等についても、新型コロナウイルスの5類への見直しに合わせて、徐々にコロナ禍以前の状態に戻していただきたい。</p>
<p>IX 教職員の育成 (5項目)</p>	<p>評価点【 4.4 】*昨年 3.8</p> <p>これまで、項目37の「教員が計画的に研究調査活動を行える時間・経費が保証されている」について、時間的に余裕が無いため研究活動ができず評価が低かったが、今年度は、3名の教員が学会で研究発表をすることができ、評価が上がった。しかし、研究活動に当たり、先に学校倫理委員会で審査をするなど計画的に実施することが課題である。項目39の「学内授業の参観、授業研究に参加等」についても、今年度は、新規科目等の授業の参観があり評価が上がった。いずれも、まだ少数の教員にとどまっており、教務事務の導入により改善傾向にあるが、時間の保障はまだ不十分のため、今後も業務改善を図り、研究活動に取り組む時間をいかに作り出すかが課題である。</p>	<p>評価点【 4.4 】</p> <p>・教務事務の導入の効果については、新カリキュラム1年目なので新しい授業なども多く時間外勤務の時間は大きく減ってはいない、講師対応や時間割作成、外部講師資料や試験準備の依頼など多くやってもらっていて、その分授業や学生指導に費やす時間は増えていると思われる。ただ、学内では改善傾向のようだが、実習においては学生の状況・病院の状況もあり、年々かかりっきりにならざるを得ない状況になっていると思われる。</p> <p>・看護教員の資質向上では、看護教員のラダー活用を昨年度より福島県看護学校協議会のものを参考にしたラダー評価表を使って育成面談に活用しており、</p>

		まだ時間がたりないようだが評価できると思う。
X 地域社会 への貢献 (1項目)	評価点【 4.7 】*昨年 4.6	評価点【 4.9 】
	<p>昨年平均4.6から4.7へ上昇し、全般的に高評価であった。</p> <p>コロナ禍で今年度の学生祭は学生の家族等の関係者に限定して開催したため、地域と交流する機会を持つことができなかった。しかしながら、8月に市主催のキッズジョブに、12月には富士山女子駅伝にボランティアで参加し、実施可能な範囲で地域社会への貢献が行っていた。今後も、学校として、できる限りの活動推奨の支援は継続していく。</p> <p>ホームページ等を活用した広報活動は効果的に行っており、広報活動に関しては、高い評価であったため、さらに力を入れて継続していく。</p> <p>また、教職員は高校に学校説明会に赴いたほか、富士市新型コロナウイルスワクチン集団接種会場にて、接種業務に従事しており、富士市職員として新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めている。</p>	<p>・コロナ禍で不十分な点もあったが全般的には問題ないと思われる。今後も、学校として、できる限りの活動推奨の支援継続に努めていただきたい。</p>

◆学校評価委員会

- 委員長 富士市立看護専門学校 校長
- 委員 富士市保健部長
- 富士市立看護専門学校 副校長
- 元富士市立看護専門学校 副校長
- 富士市立看護専門学校同窓会長
- 保護者代表